

# 令和6年度事業計画書

自 令和6年4月 1日  
至 令和7年3月31日

社会福祉法人 晃宝会

## 目 次

1.はじめに	1
2.特別養護老人ホーム あじさい園	2
3.ショートステイ あじさい園	4
4.医 務 室	5
5.管理栄養士・調理師	6
6.歯 科 衛 生 士	8
7.特別養護老人ホーム あじさい園宝	8
8.ショートステイ あじさい園宝	11
9.グループホーム あじさい園宝	12
10.グループホーム あじさい園	13
11.デイサービス あじさい園	14
12.ケアハウス あじさい園	15
13.居宅介護支援事業所	16
15.オレンジカフェ すいもん	17
16.ニコニコタクシー (介護輸送サービス)	17
17.ハーネ 中御門	18

社会福祉法人 晃宝会  
理事長 松村圭祐

## 令和6年度 法人目標 「心身の健康」

新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着き、昨年5月8日以降は感染症の類型も緩和され、元の日常に戻るべく町は活気を取り戻し、外国人観光客も増加、世の中は総じて緩やかではありますが回復基調にあるようです。一方、ウクライナ侵攻をきっかけに燃料原料高となり物価上昇をもたらし、国全体では積極的に賃金上昇を促していますが、福祉施設の運営については、人材不足も重なり、厳しい状況であることは否めません。

介護報酬という国からの決まった収入の中での、物価高騰人件費高騰は、経営を圧迫し、福祉、つまり「しあわせ+しあわせ」の実現を夢見て、日々仕事を行う我々にとって、地域共生社会の実現や地域ケアシステムの構築に向け、どこまで理想を追い続けることができるのか。加えて、気候変動がもたらす自然災害への備えも急務となるため、不安を持たざるを得ません。

今までつちかった知恵と経験とより良い知識を駆使し、目の前の課題をひとつひとつ丁寧に考えて解決するという地道な努力を継続すると同時に、力を蓄え予期せぬ課題には、心ひとつに協力し、改革改善を進めてまいります。

今年度の目標は「心身の健康」とします。

ご利用者の心身の健康をお守りすることはもちろんのこと、サービス提供者である法人職員の心身の健康、そしていつも近くで影となりひなたとなり支えてくださっているご家族、地域の皆様の心身の健康、行政や関係者の皆様の心身の健康を祈り、5つの基本理念、感謝、機転、謙虚、笑顔、清潔、を実践してまいります。

今年度、地域貢献事業として、奈良市高畑町102-1「晃宝会フォーラム」の事業を開始します。平成29年からの「オレンジカフェすいもん」の事業展開で培った仲間との集いの場、学びの場、心安らぐ場、としての晃宝会独自の地域貢献の実際を、次は高畑町「晃宝会フォーラム」で行います。法人内外の研修会や役職員の会議、災害や感染拡大時など有事の際の利用、地域の皆様の交流の場、障がいのある方、認知症のある方、介護や支援の必要な方、とより多くの皆様にコンサートや映画鑑賞などをお楽しみいただく場としてご利用頂き、地域共生社会の実現に向けた取り組みを継続いたします。

## 2.特別養護老人ホーム あじさい園

### 法人目標 『心身の健康』について

ご利用者が、老いと向き合いつつも心穏やかに健康で、園で生活を過ごして頂ける様に援助させていただきます。また、職員についてもご利用者の多様化するニーズに対応する中で、ストレスを溜め込み過ぎないように職員同士が切磋琢磨しながら明るく、元気に、笑顔で、心身共に健康で援助出来るように努めます。

### パーソンセンタードケアのために

- ・尊厳、自尊心を傷つけないようにご利用者に対し職員一人ひとりが笑顔と温かい心で支援・援助を行います。
- ・ご利用者、ご家族、職員の思いが実る、「笑顔が増えるケアプラン」を立案します。
- ・日常の些細なご利用者からのサインに目を向け、認知症をお持ちのご利用者の苦手な所もお手伝いさせて頂き、その人らしく生活して頂ける様に援助します。
- ・看取りケアについては、医師からの指示に従って苦痛を和らげながら、これまで続いてきた生活が、自分らしく穏やかに過ごして頂ける様に日常生活のお手伝いをさせて頂き、心身の状態変化に応じて形を変えつつ最期の最期まで継続できるよう切れ目なく支援いたします。
- ・ご利用者が室内で行える身体を使った四季折々の行事を行い、笑顔で過ごし、楽しく生活して頂けるよう支援いたします。
- ・ご利用者の些細な状態変化にも目を配り、職員が自信と誇りを持って対応し安心して頂ける支援を目指します。
- ・毎日の業務を行う中での気づきを会議の議題として話し合い、必要に応じマニュアル等の改善を行い、ご利用者にも職員にも負担がかかり過ぎることのない勤務体制づくりを目指します。

### 過ごしやすい空間づくりのために

- ・居室には必要な物のみを置く様にして、ある程度ゆとりのある空間スペースを作り、ご利用者に安全に移動していただけるようにします。
- ・心地の良い自然の光や風を感じられる、明るく清潔で居心地良い安らぎやぬくもりを感じて頂ける様な空間作りを目指します。
- ・緑が多い場所なので、自然の風を感じられる、居心地良い安らぎやぬくもりを感じて頂ける様な空間作りを目指します。
- ・ご利用者に、その人らしい美しいお姿で過ごして頂けるよう整容に気を配り、職員は好感を持って頂ける清潔感のある身だしなみを心掛けます。

### 『職員』という環境を整えるために

- ・職員同士の連携不足から問題が生じる前に、コミュニケーションが取りやすい環境の整備に努めます。
- ・業務内容が多いことで長時間労働や残業の原因にならないよう業務の見直しを検討します。
- ・人手不足から職員ひとりひとりの仕事量が多くなっている場合もあるので職員によって負荷の偏りが生じていないか確認する。
- ・園内の湿度や温度は、業務効率に大きな影響を与える重要な要素です。

不適切な環境が続けば、風邪を引きやすくなるなど体調を崩す原因にもなりかねません。空調設備や室内の温度、湿度を定期的に現状が適切であるか確認します。

- ・爽やかな挨拶、丁寧な対応と思いやりのある言葉かけをはじめとする、思いやりあふれる接遇を継続していきます。

- ・年間目標を軸として、毎月目標を掲げ職員全員で達成できることを目指し、毎月の達成状況を把握します。職員それぞれのレベルに応じ助言・指導を行い意識向上・スキルアップを目指します。

#### 技能実習生について

- ・1期生（特定技能）につきましては、5年目を迎え、現場には欠かせない存在になっています。職員のサポートをしてもらいながら、心身の健康に留意し、自身もスキルアップが出来るよう支援します。

- ・2期生につきましては、園の雰囲気慣れご利用者の援助が出来るようになりました。日本語には、まだまだ戸惑う事もありますが職員がサポートしていきます。また、安心して介護技能実習評価試験（専門級）合格を目指して取り組めるよう、管理組合と連携し、学習面、生活面を支援します。

#### 安心して過ごして頂くために

- ・新型コロナウイルス感染症は増減を繰り返しています。ご利用者、職員共にワクチン接種していますが、まだまだ感染力が強く、安心できる状況ではありません。気を緩めることなく感染症対策に努めます。

- ・出勤時、業務に入る前に手指消毒、業務前の検温、食堂・居室・廊下・車椅子など手に触れる場所全ての消毒を行います。

- ・感染状況や情報を元にマニュアルを改訂し、実際の取組に落とし込んでいきます。

- ・スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗いを行い1ケア・1手袋・手指消毒を徹底し感染症予防に努めます。

- ・新型コロナウイルス感染症等が蔓延した場合の事業継続計画（BCP）の策定に取り組んでいきます。

- ・面会については、いまだ制限させていただいていますが、ご家族にも毎月のお手紙を通じて近況報告をさせて頂き信頼関係にも努めてまいります。

◎事故防止対策については、引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）にて行います。

◎食事箋（食事形態）の検討や変更については、ご利用者の状況に合わせてタイムリーに行えるように努めます。

◎歯科医師、歯科衛生士の助言のもと、ご利用者個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、いつまでも美味しく食事を楽しんで頂けるよう支援します。

◎新しい介護機器や備品などを試し、ご利用者が快適に過ごして頂くために有益な物を積極的に取り入れます。

#### 稼働率の安定を目指して

- ・ご利用者の体調管理と事故予防対策を丁寧に行います。

- ・入所検討会議における、次期入所者検討を効率化し、常に数名の内定者を確保しておき、退所後の空床期間14日以内を目指し、年間を通じて各月53床の稼働平均を目指します。

#### 経費節減を目指した取り組み

- ・エアコンや電灯のこまめなスイッチオン/オフにて適正使用に努め、備品を丁寧に取り扱いします。
- ・洗剤等消耗品の適量発注と無駄のない使用を行い、節水にも心掛けます。
- ・ご利用者に気持ち良くお過ごし頂ける事を前提とし、オムツ・リネン等の効率的な使用を目指します。常にアンテナを張り、安価で良い物があれば都度見直し、業者や出納責任者とも連携を図り、経費節減に努めます。
- ・発注データの価格変更など定期的に更新し管理をします。また、同データを使用している他部署とも連携を図り、コスト管理ができる体制を構築します。

### 3. ショートステイ あじさい園

今年度法人目標「心身の健康」を基に以下の取り組みを実施致します。

ショートステイでは思いやりの心と温かい対応でご利用者がストレスを感じず、生き生きと生活が出来る環境作りに努めていきます。ご利用者だけでなく、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるよう職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせ、より良い施設作りに努めていきたいと思っております。また介護をさせて頂く我々職員も心身の健康に気を付けストレスマネジメントし、ベストなコンディションでご利用のケアを行えるよう努めていきます。

#### サービス提供について

私たちはご利用者やご家族・地域の方々に支えられていることを念頭に入れ、目配り・気配り・心配りと機転をきかし、ご利用者のどんな些細なニーズにも耳を傾け、思いやりと笑顔を忘れず対応してまいります。コロナ禍で季節ごとの催し物やレクリエーションの企画・実施が困難になっていりましたが、昨年5月8日以降感染症の類型も緩和されたので、感染症対策をしながらご利用者の皆様に楽しく喜んで頂けるよう企画・実施していきたいと思っております。また感染防止の対応や規定・制限等でご利用者・ご家族にはまだまだお手数をおかけすると思っておりますが「また利用したい」と言って頂けるように職員一同精一杯のおもてなしをいてまいります。また、職員自身も新しい事にチャレンジする気持ちと向上心を持ってスキルアップに努めてまいります。そして、常に安定した稼働率（90%以上）を目標に、健全な運営の維持を目指します。

#### 事故・感染症について

安心・安全で施設生活をおくって頂けるようご利用者一人ひとりの日頃の状態を把握し、身体の変化を見逃さず、迅速な対応と、ご家族・担当ケアマネジャーとの連携や医療（看護師等）との連携を密に図ってまいります。職員は、常に「もしも」・「いざ」という時の対応・行動が迅速かつ的確に行えるように、適切な知識と技術の取得に努めます。常日頃、事故の防止に努め、ヒヤリハットの分析を行い、事故発生時には、報告・連絡・相談の上、早期対応及び再発防止に努めます。感染症流行時期には、ご家族にお知らせの手紙を配布し、注意を呼びかけ、また広報誌「ゆめあじさい」においても感染予防の啓発やご理解をお願いします。感染症対策では、勉強会・会議を通して、職員への意識づけを徹底し、平常時から予防に努め、ご利用者が安心して生活出来る環境作りを行います。

#### 送迎について

送迎時のトラブルや事故がない様に、常日頃から報告・連絡・相談を意識して、ご利用者の方々が安心・安全に利用して頂けるように努めます。事前のアセスメントを、細かく行い、周知、理解することで、事故の予防に努めていきます。

## 4.医 務 室

医務室の基本的な役割は、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、産業医と安全衛生委員との連携による、職員の労働災害の予防対策及び職員のメンタルケアに努めることです。

### 1. 健康管理

#### ① 健康状態の把握

- ・毎日のバイタルチェック、申し送り、巡回でご利用者の健康状態を観察させていただきます。
- ・多職種との連携により、統一した視点で日常の健康チェックを行います。
- ・異常の兆候を早期に発見し、医師への連絡、指示を仰ぎ適切な処置をさせていただきます。

#### ② 健康診断

定期健康診断、各種検査を行い、医師との連携により適切な看護、医療へとつなげていき、健康状態を把握させていただきます。

#### ③ 健康の維持

個々の健康状態に適した運動、食事、休養の必要量を判断し、介護職員と協力し実施できるようにさせていただきます。

#### ④ 健康教育

- ・健康についての正しい知識を普及し、老化と共存し、穏やかな生活ができるよう、また、老いの受容を精神面から援助させていただきます。
- ・疾病予防のための知識の普及に努めます。

#### ⑤ 受診への対応

受診の必要性を判断し受診計画を立て、多職種の協力を得て受診につなげ、付き添い介助を行います。

#### ⑥ 職員も心身ともに健康でなくてはならない、その為の健康管理を行います。

個人に関わる事に関しては、プライバシー保護に努めます。

### 2. 健康障害を持った高齢者への対応

#### ① 疾病を持った高齢者への看護

疾病が老化とともに確実に増加し、医療を必要としています。

- ・疾病の予防と早期発見、合併症の予防
- ・疾病の早期治療援助

#### ② 認知症高齢者への対応

認知症の高齢者は、高齢者自身が悩み苦しむだけでなく、周囲の人々を巻き込む事が多い。「異常行動」「問題行動」を起こす人としてとらえるのではなく、援助を求め、必要としている人間として、認知症高齢者に目を向ける中で、ケアの在り方を考えます。

- ・認知症高齢者の精神状態を正しく把握させていただきます。

- ・身体、精神、環境の相互関係を踏まえます。
  - ・介護職員への助言、研修を行います。
3. 感染症予防について
- ・社会全体と県内の感染症の状況を常に把握し、先手をうてるよう、各委員会と協力して、感染症予防と蔓延防止に努めます。

#### 令和6年度法人目標 「心身の健康」

WHO では「健康とは肉体的、精神的および社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しない事ではない」と定義されています。病気ではない事がイコール健康ではなく、心も体も健やかで社会的にも良好な状態でなければ健康とは言えません。健康な状態を維持するには、食生活、運動、休養といった3つの要素が必要で、栄養、食生活は生活習慣病に関係し、生活の質に影響します。運動は健康の維持増進につながり、休養は疲労回復、ストレス対処に欠かせない要素で、心の健康を保つために大切です。また睡眠は疲れた心身を回復し、心穏やかにし適切な判断力を維持する事が出来ます。私達看護師は、心身共に健康でなければ十分な仕事が出来ません。不健康な状態では注意力が散漫になり、重大なミスにつながると常に念頭に置いておかなければなりません。看護師は自分の健康管理をしっかりとし、ご利用者が安心して看護を受けられるよう努めます。ご利用者には、人生の先輩として尊敬し、尊厳を守り、苦痛を取り除き、安心して過ごして頂ける様支えていきたいと思っております。

### 5.管理栄養士・調理師

#### 「食事提供について」

あじさい園の厨房では、特別養護老人ホーム、ケアハウス、ショートステイ、デイサービス、グループホーム、配食と様々な事業のご利用者へ心を込め食事を提供しています。

旬の食材を使い季節感のある行事食や、色彩豊かで栄養バランスの良い心が和むような食事を提供していきたいと思っております。また、ご利用者の栄養状態や疾病の改善及び個々の嗜好に寄り添う食生活の向上に努めます。

食事は、『健康の源』である事から、食材の選択や調理へのこだわりにより、美味しい食事を提供すると共に、できる限り経口摂取が継続できるように努めます。普通食（常食）を基本として、摂食・嚥下機能に障害を持ったご利用者に合わせ、刻み食・刻みトロミ食・ソフト食・ペースト食などの嚥下調整食を提供します。ご利用者に適した食事提供を行う事で、食事を楽しいものと感じて頂き、栄養状態の維持・向上を図ります。ターミナル期を迎えたご利用者にも食べる楽しみを持ち続けて頂けるよう、食事内容の工夫を行っていきます。

普段の食事は家庭的な雰囲気味わっていただける献立を提供し、行事食やお誕生献立などバラエティー豊かな食事を提供します。また、部署ごとにおやつ作りや食事会を開くなど、楽しみや意欲をもって参加していただける行事を実施します。

月に1回、給食会議を開催し、より良い食事の提供ができるように、各部署と意見交換や食事に関わる連絡調整を行います。ご利用者にとって食事は欠かせないものであり、楽しみの1つと考えられます。そのため、嗜好やご利用者の意見を取り入れた献立で、食事を楽しめることに配慮した食事サービスを目指します。



### 栄養ケアマネジメントについて

身体状況・食事摂取状況などの把握に努め、栄養状態・嚥下状態等に基づいた食事内容を多職種と検討し、個別に栄養ケア計画書を作成します。計画書の内容をご家族様に説明し、ご利用者の状態を把握して頂けるよう努めていきます。栄養ケア計画に沿って栄養管理を行い、定期的実施状況の記録と評価を行います。栄養状態の維持・改善を図り、必要に応じて計画書の見直しをします。

医師の指示のもと、疾患に応じた療養食を提供します。ご利用者の病状や体調に合わせ、食べやすい食事内容や食事形態など柔軟に対応します。

多職種と連携を図り、ご利用者の体調や栄養状態を把握し、低栄養の予防に努めると共に、低栄養のリスクが高い場合には食事形態の変更や栄養補助食品の提供を行い、栄養状態の改善に努めます。生活を穏やかに過ごされる支援の一環として、1人ひとりの生活を最優先し、健康の維持や悪化予防のための観察とアセスメントを行い、自然な老いをゆっくりと歩まれるよう、個別の「食」が充実できる環境を整えます。

### 緊急時の食事提供について

国内で頻発する自然災害、感染症など、不測の事態に備え、備蓄品(備蓄食、食器等)を確保・保管します。ご利用者、地域の皆様、業務に関わる職員の生活を支えるうえで重要な「食」を、栄養面や咀嚼・嚥下機能にも考慮し準備します。

備蓄品、保管場所、調理作業内容等については各部署との話し合いにより対応を検討していきます。また、防災訓練等で炊き出しの訓練を計画し実施していきたいと思えます。

### 衛生管理について

衛生管理を徹底し、「大量調理マニュアル」に基づき、食中毒・異物混入・感染症予防に努めます。また、研修などを通じ衛生管理に関する知識を高めます。

食中毒・感染症予防のための研修により、正しい知識を身につけ、定期的な厨房内の衛生チェックを実施し予防に努めます。厨房内の清掃はもちろん、定期的な水質検査を実施します。食材については納入時の鮮度や温度測定をし、適温での管理を行います。服装等も清潔を心がけ、健康管理に努めます。

職員が感染症や食中毒の感染源とならないよう、体調管理や手指消毒などの衛生管理を図り、安心して食べていただける食事を提供します。安全な給食提供にあたり、厨房機材・厨房設備の管理に努めます。

### 心身の健康について

健康とは、単に病気を防ぐだけでなく、身体的、精神的、社会的にも良好な状態を保つことを意味します。身体だけでなく心が健康であることは、自分らしく生きられているという事だと思えます。自分らしく生きるためには、「身体の健康」と「心の健康」を保つことが重要で、両方の健康を保つには適度な運動、バランスのとれた食事、良質な睡眠という3つの要素が欠かせません。これらの要素は、私たちの日常生活の中での選択に大きく影響を与え、健康維持・向上させる上で鍵となっています。このことを多くの方が理解し、社会全体で健康増進に取り組むことが大切だと思えます。

健康の素は楽しい食生活から…。食事を通じてご利用者に笑顔と喜びをプラス出来るよう日々努力致します。

## 6. 歯科衛生士

### 令和6年度法人目標 「心身の健康」

平成8年、あじさい園開園当初より、晃宝会は口腔ケアに力を入れてまいりました。口腔ケアは狭義の口腔ケア（ブラッシングなど機械的な清掃）と広義の口腔ケアがあり、晃宝会がすすめているのは広義の口腔ケアです。摂食、嚥下、咀嚼、発音、審美性の維持や、歯科治療、リハビリテーションが大切で、唾液分泌を促す、しっかり咬む、ゆたかな表情と笑顔、など心身の健康保持には欠かすことはできません。

80才になっても自分の歯をのこそうという8020運動は、1989年スタート、そのころの達成率は10%弱でしたが、平成29年には51.2%となりました。その中でもよくかめている人の割合は少なくなります。

今、さかんに言われているのは「オーラルフレイル予防で健康長寿を」であり、口から食べることを中心とした、口腔機能の低下予防です。「お口は人生の入り口」とも言われ、食べる、しゃべる、呼吸する、表情をつくる、とさまざまな働きがあります。歯を大切にすることはもちろんですが、筋肉である口唇、舌、頬の機能向上も大切です。

オーラルフレイルとは、高齢に伴い、歯数や口腔機能の低下、さらには、社会的、精神的、身体的な能力の低下も重なり、さらに弱くなった状態をいいます。しかし、オーラルフレイルは可逆的であるため予防が大切です。健康長寿のための3つの柱としては、栄養（食、口腔機能）、身体活動（運動、社会活動）、社会参加（就労、余暇活動、ボランティア）です。歯科衛生士としての専門的な口腔ケアの介入によりオーラルフレイルの予防を実践し、心身の健康を維持できるよう努めます。

## 7. 特別養護老人ホーム あじさい園宝

### ○法人目標「心身の健康」について

昨年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、面会や施設行事を再開でき、ご利用者の日常生活にも活気が戻りました。しかしながら、感染症自体がなくなった訳ではなく、ひとたび園内で感染症が発生した際には、拡大防止のための対応に全職員が集中して当たりました。今年度は、3年に1度の介護報酬改定が行われ、感染症や災害への対応力向上、良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり等が、従来の取り組みにも増して求められます。ご利用者の心身の健康を維持するためには、私たち職員が心身ともに健康で仕事に臨むことが大切です。各部署が協力し、お互いに思いやりの気持ちを忘れずに、笑顔で仕事ができるような施設運営を行います。

### 1. 個室ユニット型施設としての個別ケアの充実

#### ①ご利用者が望む暮らしが実現できるケアプランの作成と自立支援

ご利用者が抱える生活問題は一つではなく、複数存在します。健康状態、ADL、日々の気持ちの変化など、生活全般の観察を通じた現況の把握と分析を行い、意思決定の機会が少しでも増えるようなケアプランの作成を目指します。また、ケアカンファレンスでは、他職種連携によって、より専門的、多角的な視点から意見交換を行

い、ケアプラン作成に役立っています。特に、介護・医療・栄養・機能訓練において、専門職がご利用者お一人おひとりの状態を科学的に分析し、根拠に基づいたケアプランの作成を目指します。作成されたケアプランは、フロアの全職員へ周知徹底を図り、サービスの提供に努めます。

#### ②24時間シートの活用

その人らしい暮らしを実現するためには、ご利用者の個々のニーズをしっかりと捉えることが大切です。今までの暮らしの延長線に施設での生活があることを理解し、お一人おひとりの生活リズムに寄り添う24時間シートを活用したケアの提供に努めます。安全で健康的な生活を送っていただくために、日常の記録とケアの提供の連動性に気を配ります。

#### ③快適な入浴及び排泄ケアの実践と清潔保持

入浴は、良い気分転換の一つであり、楽しみにされているご利用者が多いです。心身の状態に応じて小浴、機械浴といった入浴方法を提案し、安心、安全に入浴していただくことで、心身のケアに良い効果が期待できます。また、高齢者の多くは現役世代より活動量が低下するために睡眠の質が低下しやすい傾向にあります。入浴は、ご利用者にとって運動の代わりとなり、心地よい疲労感が自然な入眠を促し、QOLの向上につながります。そして、身体を洗って皮膚を清潔に保つことは、感染症予防や褥瘡予防にも効果があることから、介護職と医療職が連携して質の高い入浴ケアを行います。

ご利用者の排泄リズムに合わせたケアと、適切な排泄用品の選定をいたします。失禁率を減らせるよう、記録を分析・検討し、ご利用者の不快感と職員の負担軽減に努めます。質の高い排泄ケアを提供することで、夜間の睡眠を十分に確保し、健康的な生活を送っていただきます。また、トイレでの自然排泄が継続できるように、自立支援いたします。

#### ④心身の健康につながる食支援と栄養ケアマネジメント

管理栄養士による、献立作成により、お一人おひとりの健康状態に合わせた食事を提供いたします。栄養ケアマネジメントを実施し、ご利用者の日々の健康管理に、食事面でのサポートをさらに充実させます。低栄養のリスクを3段階で評価し、リスクが高いご利用者には2週間ごと、中程度のご利用者には4週間ごと、リスクが低いご利用者には概ね3か月ごとにアセスメントを行います。そのアセスメントに基づき、管理栄養士が介護職員とカンファレンスやミールラウンドを行い、摂食・嚥下の状態等を考慮した上で、食事形態をより細かく見直していきます。住み慣れた施設で最期まで穏やかに生活していただくためには、看取りケアを行う際の栄養ケアや食支援が非常に重要です。ご本人やご家族の意向を把握し、その人らしい生活を納得した形で送っていただけるよう支援いたします。

献立には手作りのメニューを多く取り入れ、ご利用者にとって毎日のお食事が楽しみ事になるよう支援いたします。ユニットケアの特徴を活かして、調理中の香りや、目の前での盛り付けなど、五感でお食事を味わっていただけるように、介護職員と管理栄養士、調理員が連携して食事提供を行います。看取りケアの際も、無理なくご自分のペースでお好きなものを召し上がっていただき、最期までその人らしい暮らしが継続できる食支援を行います。

#### ⑤リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組の推進

歯科衛生士による専門的口腔ケアや介護職員による日常の口腔ケア、口腔リハビリテーションを積極的に行い、口腔機能の維持・向上を図り、オーラルフレイルを予防します。当法人では、「口腔は人生の入口」であり、全身の健康管理に口腔ケアがとても重要であると考え、歯科医師による定期健診を実施し、必要に応じて歯科治療も行います。また、口腔内を清潔な状態に保ち、誤嚥性肺炎やインフルエンザなどの感染症を予防します。そして、栄養ケアマネジメントと口腔機能の維持・向上がご利用者の食支援につながるよう、LIFE システムや ICT を活用し、一体的な取り組みを推進いたします。

#### ⑥疾病の重症化予防と医療的ケアの充実

ご利用者の心身の健康維持のために、毎日のコミュニケーションを大切にし、信頼していただける関係作りをいたします。また、体調変化の気付きを大切にし、必要な際は迅速な病院受診ができるよう、嘱託医や協力医療機関との連携を強化します。ご利用者、ご家族が、病院ではなく施設での生活が安心して継続できることを望まれるケースが増えており、最期まで自分らしく住み慣れた場所で暮らしたいというニーズに応えられるよう、多職種が連携して「看取りケア」を行います。その中で、しっかりとした医療知識と技術を職員が身に着け、医療的ケアの充実を図ります。

#### 2. 清潔・安全・快適な生活環境の整備

基本理念である「清潔」について、職員一人ひとりが常に意識し、ご利用者やご家族が利用したいと感じていただける環境を整備いたします。感染症対策は、初期対応が非常に重要であり、感染源をできるだけ持ち込まないよう、多職種が連携してスピード感を持って対応いたします。

また、心身の状態に合わせた介護機材を整備し、職員一人ひとりが適切に使用、管理できるようにいたします。

##### ①共用スペースの定期的な整理・整頓の実施

##### ②共用スペースや居室の定期的な消毒の実施

##### ③介護機材の定期的な洗浄、消毒の実施

##### ④備品や家電等のメンテナンス

##### ⑤感染症対応時の物品の確保、整理整頓の実施

#### 3. 季節を感じていただける行事運営で潤いのある日常生活を

ご利用者に社会とのつながりや季節感を感じる生活を送っていただけるよう、行事運営を積極的に行います。ご利用者に安心して楽しんでいただけるよう、オンライン介護予防教室や、ピアノコンサート、自治会のラジオ体操など、感染症対策に配慮した行事運営を行います。

#### 4. 共に学び、成長できる働きやすい職場へ

より質の高いサービス提供を維持・継続できる施設運営を行うために、引き続き職員の資格取得支援や研修を充実させます。実務者研修修了や介護福祉士国家試験合格等、具体的な目標設定をし、スキルアップを目指します。無資格未経験の職員は、まず認知症介護基礎研修を受講できるよう支援します。また、認知症ケアの質を向上するために、認知症介護実践者研修やリーダー研修の受講機会を増やすとともに、既に介護福祉士資格を有する職員については、ユニットリーダー研修や介護支援専門員試

験等、キャリアアップにつながる資格取得を目指します。自ら学ぶ姿勢を持ち、なりたい自分になれる、長くやりがいを感じながら働ける職場づくりを目指します。

人材確保については、年齢や経験を問わず、働く意欲がある方を積極的に募集し、ともに学び、働きながら資格取得を目指すことができる環境を整えます。また、外国人技能実習生やEPA介護福祉候補者等の外国人人材を広く雇用し、日本語能力向上のための支援、資格取得支援を行い、介護福祉士として長く働いていただける職場づくりを目指します。

- ① 資格取得支援
- ② コミュニケーション能力の向上
- ③ 丁寧で的確な言葉遣い
- ⑤ ライフスタイルに応じたシフト体制

#### 5. ICTを活用した介護記録等の効率化

ICTを活用した介護記録により、外国人従業員を含む職員間での記録内容の標準化と作業時間の短縮をはかり、ご利用者とかかわる時間を今以上に増やします。また、ケアプランと栄養ケアマネジメント、口腔に関する情報のより高度な連携とデータ共有を行い、科学的介護を実践いたします。

#### 6. 地域と連携した災害への備え

自治会との合同防災拠点として、ラジオ体操やサロン活動などの地域行事の拠点として、ご家族様や地域の皆様と、顔の見える関係づくりと施設運営を行います。また、職員間、関係機関との連携体制と、迅速な情報共有の手段を日頃から構築し、災害への備えを強化します。BCPに基づく防災・感染症対応訓練や福祉避難所開設訓練を行い、“地域の安心拠点”となるよう、職員一人ひとりが地域資源であることを自覚して行動いたします。

広報誌「のこのこたより」を中心に、地域拠点として皆様に広く知っていただくための情報発信も行います。

#### 7. 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、初期対応の重要性を痛感いたしました。感染症発生時に職員一人ひとりが迅速に行動できるよう、委員会の開催、指針の整備、研修の実施とともに、感染症発生を想定した、訓練を定期的実施し、組織としての機能を高めます。また、発生から収束までの一連の対応の振り返りを必ず行い、知識と技術の習得に努めます。

#### 8. 介護保険施設機能の地域への展開とご利用者の確保

申し込みから面接、入居までの流れをスムーズにし、新規入居者の確保に繋がります。また、ご利用者とご家族のニーズに常に耳を傾け、より質の高いサービス提供を行います。専門機関として、要介護、要支援を問わず、すべての介護保険利用者に適切な情報提供ができるように努め、電話や窓口対応を丁寧に真心込めて行います。そして、日頃より待機者情報を整理・更新し、満床継続と退居後の空床日数14日以下を目指します。

### 8. ショートステイ あじさい園宝

地域のニーズに迅速に対応し、一人ひとりの心身の状態に寄り添った支援をいたします。

・緊急時には居宅介護支援事業所や保険者と協働して、積極的に受入を行います。受入に際しては迅速・適切な対応を行い、ご家族や担当介護支援事業所と連携のもとで安心安全なサービス提供に努めます。

・職員は法人基本理念、感謝、機転、謙虚、笑顔、生活を踏まえ、目配り、気配り、心配りに徹して、高齢のご利用者に安心していただける支援をいたします。

・自分らしく元気に過ごしたいというご希望に添えるよう、ご家族との連絡を密にし、生活の様子が見える、開かれた施設運営を行います。

・施設入居希望者の早期の受け皿として医療機関とも連携し、医療的ケアのニーズにも応えます。

・利用前の面談時には、ご本人のご希望を丁寧に伺い、ご家族の協力のもと心地良い環境づくりと安心できる関係性を築きます。

・行事への参加、リハビリテーションを通じて、日常生活に必要な身体能力の維持、向上を目指します。

・認知症等の疾病への理解を深め、心身共に健康な在宅生活を維持していただけるようなサービス提供、ご家族への支援を行います。

## 9.グループホーム あじさい園宝

### 法人目標「心身の健康」について

グループホームあじさい園宝では、お一人おひとりがその人らしく生活できるよう、気づきを大切にし、職員自らが考えて行動します。ご家族と離れて生活することから生じる精神的、心理的不安の解消に努め、心身ともに健康で、笑顔あふれる毎日を造ります。認知症になっても、自分はこう在りたい、こうしたいという言葉に耳を傾け、ひとつでも多く実現できるように支援いたします。

### ご利用者に安心・安全な生活を送っていただくために

ご本人の生活リズムを大切にし、個別支援を行います。心身の健康を維持するためには、良質な睡眠が必要です。眠りスキャンを活用して夜間のトイレ誘導の声掛けを行い、しっかりと睡眠時間を確保し、日中を活動的にお過ごしいたします。

また、ご利用者の日々の様子をこまめに連絡することで、ご家族とも信頼関係を構築し、安心・安全な生活の場となるよう努めます。ご利用者にとってより良いケアが行えるよう、ご家族にも開かれた場所となるよう運営いたします。

### 事故防止・感染症対策について

ご利用者に事故なくお過ごしいただくために、日々の生活の中にリハビリテーションを積極的に取り入れます。健康体操や食事前の口腔リハビリテーションを続けることで、筋力低下を防ぎ、転倒や誤嚥を予防します。また、気づきを大切にし、ヒヤリハットから事故の予測を行い、事故防止に努めます。事故が起きた際には、迅速な検証と対応ができるよう職員研修を行うとともに、職員同士のコミュニケーションと報連相を徹底いたします。

集団生活の場では、感染症が発生すると広がりやすい環境にあるため、感染症予防のために、ご利用者の日々の健康観察を介護職と医療職が連携して行います。また、初期対応が重要と考え、迅速な感染経路の特定、適切な感染防止対策、人員配置を行い、感染症の早期収束に努めます。

## 運営推進会議・地域交流について

開園当初は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、リモート形式での運営推進会議を検討しましたが、地域のみなさまとお顔の見える関係作りができるよう、対面形式で開催いたしました。ご参加いただいたみなさまと、園での生活の様子や地域課題について様々な意見交換をさせていただき、これから地域に根差したグループホームとなるよう、職員一人ひとりが考える機会を得ることができました。感染症の状況にもよりますが、運営推進会議や地域防災訓練、自治会のラジオ体操、サロン活動など、可能な限りみなさまと直接お会いする機会を多く持ち、地域に開かれた施設運営を行います。

## 10.グループホーム あじさい園

### 法人目標「心身の健康」について

ご利用者、ご家族に出会えたご縁に感謝し日々の生活を心穏やかに体調の変化にも敏感に塩田医師をはじめ、医療機関とも適切な対応をとりご利用者の心身の健康をお守りいたします。

### 余暇活動、レクリエーションの充実

DVDを使って体操時間を設け、声を出したり体を動かしてもらうことで身体機能の維持、向上、気分転換、皆さんと一体感になって同じ時間を共有しながら有意義な時間を過ごしていただきます。定番となったゲームから新しく考案したゲームなど様々なことにチャレンジしていただき笑ったり応援したり、悔しがったりと心豊かに楽しい時を過ごしていただきます。ご利用者の笑顔が私たちの喜びです。

洗濯物のお手伝い、昼食会の下準備、編み物、草引きなどその方に合った役割の提供等、特技を引き出しグループホームならではの特徴が活かせるよう努めてまいります。

ご利用者の健康をお守りし、より良いサービスを提供できるよう職員も日頃の健康管理、感染症対策はもちろんのこと、職員が急な体調不良による欠勤時にもカバーしやすい環境づくり、業務の見直し、分担制にも取り組んでまいります。

### 運営推進会議について

2ヶ月に1回（奇数月）に開催しています。昨年まではコロナ禍により書面や電話などリモート形式が中心で行いましたが今年から従来通り対面で再開いたしました。5月はオレンジカフェすいもんで予定しています。地域の方にお集まりいただき充実した研修内容、意見交換、交流の場として今後の運営にも役立ててまいります。

### 職員一人ひとりが学び、成長し信頼できる関係づくりを目指します

職員のスキルアップがご利用者への思いやり、声に出せない心の声にも耳を傾ける、困りごとにも目を向け質の良い安心した生活を提供しご家族との信頼につながるよう努めてまいります。介護職員に求められる知識や技術は時代や世の中の状況によっても変化していきます。その変化に対応すべくスピード感、専門知識の習得が不可欠になり社会人としての学びや研修の参加、意識改革、多職種、他部署とのつながりを前向きに取り組んでまいります。

思いがけない事も起こります。あたふたしたり対応の鈍さが浮き彫りになる時もありますが経験値を上げていき今後につなげていきたいと思えます。新しい事にもチャレンジしそれを支え刺激しあえる関係性でありたいと思えます。

## 11.デイサービス あじさい園

あじさい園デイサービスでは、ご利用者一人ひとりの意思・人格を尊重し、ご利用者の立場に立つ事で、慣れ親しんだ地域でいきいきと生活ができるように支援致します。様々なニーズに対応できるよう、職員の意識向上、技術・知識の向上に努めます。

### 重点目標

地域社会の理解と協力を得る為、地域関係団体や、居宅支援事業所、包括支援センターとの連携を引き続き行います。

職員が意欲を持って働ける環境づくりに努め、一丸となり同じ目標に向かって努力する姿勢を大切にします。

専門職としての知識を研磨し、質の高いサービスの提供に努め、稼働率80%以上を目指します。

### 具体的なサービス内容

#### ① 新規ご利用者への援助

ご利用者・ご家族のニーズを事前にしっかり聞き取り、一人ひとりに沿ったサービスを提案します。

#### ② ケアプランに基づくケアの実施

評価を行い、問題点の解決に努めます。

#### ③ ADL/QOLの維持向上・レクリエーションの実施

ご利用者が持つ能力を引き出し、その人らしい生活の実現に努めます。楽しみある生活に導きます。

#### ④ 感染症対策

新型コロナウイルス感染症は5類に引き下げられましたが、感染症対策は継続しています。培った知識を活かし、今後もご利用者が安心して過ごせるよう環境整備を行います。

#### ⑤ 勉強会・研修の実施

ご利用者やご家族の思いが尊重され、穏やかに過ごして頂けるよう、職員の意識・観察力・行動力の強化を図ります。

日本全国の65歳以上における認知症総数は、2020年に964万人、年々の増加の一途を辿り、2070年には2.828万人まで増加することが予測されています。

勉強会の中には認知症に関しても重点を置いて、今後のニーズに柔軟に対応できるようにしたいと考えています。

### 法人目標「心身の健康」

心の健康は、いきいきと自分らしく生きるための重要な条件だと思います。心の健康には、個人の資質や能力の他に、身体状況や住環境、対人関係、多くの要因が影響し、身体と心は相互に強く関係しています。生活の質にも大きく関り、それはご利用者、ご家族、職員全ての人に当てはまる事です。

近くにいるから気づけた、時々会うから気づけた等、気づきも様々です。お互いの変化に気が付き、思いやりながら生活できる事が一番です。

基本理念である感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔をモットーに、関係者皆様の心身の健康を祈り、互いを思いやり、励まし、支え合う精神を持ち、これからも心のこ



もったサービスを提供してまいります。

## 12. ケアハウス あじさい園

### 令和6年度法人目標 「心身の健康」

職員はいつもご利用者が心身共に健康でお過ごし頂けるようにと、毎日健康チェックを行い、体調にお変わりがないか様子を観察させて頂き、コミュニケーションをとりながらお話を傾聴することで不安やストレスを解消し心穏やかに安心してお過ごし頂けるよう努めてまいります。

感染症予防にも引き続きご協力を頂きながら、笑顔の花が咲き温かな風が漂う空間作りに努めてまいります。

#### 心の健康

・長引く感染症予防で溜まっているストレスを和らげる為に、脳トレーニングプリントや、体操、園外散歩等のレクリエーションで気分転換できる機会を多く持ち、心身の活性化を図ります。

・ご利用者が不安事などを訴えられた時には傾聴して心の不安を取り除き、気分が向上出来るよう声掛けさせて頂きます

#### 身体の健康

毎日のバイタル測定・食事摂取量やコミュニケーションにより、お身体の様子の変化に気付いた時は医療との連携、家族様にも連絡し、早期対応に努めます。

#### 食事

毎日の食事は健康の源となり、皆様の楽しみの1つでもあります。お食事を美味しく安全に召し上がって頂く為に食事前には口腔体操を行います。皆様のお食事に対するご意見をお聞きし、食事中は誤嚥等の事故が無いよう見守りを行い、楽しくおいしくゆっくり食事を召し上がっていただきます。

#### 事故

たとえ小さなものでも物が壊れたり、怪我をしたりすれば気分も滅入り安心して日々を過ごして頂くことが出来なくなります。職員はご利用者が安全に日々を過ごして頂けるよう、事故の起こらない生活環境の維持に努めます。

#### 感染症予防

インフルエンザ・新型コロナウイルス・ノロウイルスなどの感染症は今でも私たちの周りで猛威を振るっています。職員は施設内に感染症を持ち込まないよう努めます。施設内でも職員・ご利用者共マスク着用・手洗い・うがい・手指消毒など衛生面でのご協力を引き続きお願いします。

#### 研修

皆様が安全・安心してお過ごし頂けるよう、職員一同知識の研鑽と介護技術の向上に努めます。

#### 稼働率

入居者募集の声掛け・ご案内を、地域包括支援センター・地域連携室等介護サービス事業所に連絡いたします。

月平均入居者27名、平均稼働率90%を目指します。

## 13.居宅介護支援事業所

法人目標「心身の健康」を踏まえ、ご利用者、ご家族、お一人おひとりに寄り添った支援が行えるように下記の点に力を入れ支援提供に努めてまいります。

### ① 在宅生活継続への支援について

生活課題を分析し、ご利用者とそれを支えるご家族がその解決に主体的に臨める計画提案に努めてまいります。

### ② ご利用者の尊厳を守る

援助関係においてご利用者の人権を守ることだけでなく、同時に地域社会・家庭においても人権を侵害されることのないように配慮し、ご本人の最も身近な代弁者であることを常に心に留め、提供されるサービスなどが特定の種類、または特定の居宅サービス事業者に偏ることのないように公正、中立の立場を保ちます。個人情報の取り扱いは、厳格な管理の下で行います。

### ③ 医療ならびに各関係機関との連携と協働について

各関係市町村の保険者、地域包括支援センター、他の介護保険施設ならびに介護保険事業所、医療機関との連携に努めます。

### ④ 職員の資質向上について

事業所内外を含めたICTを活用したオンライン研修、対面研修にも積極的に参加し、自らの対人相談援助技術の向上、介護保険制度やその他の支援制度に関する勉強会などを通して自己研鑽に努めます。昨年度同様に介護支援専門員同士の横のつながりを大切に、包括支援センターや地域の関係機関との地域ケア会議に参加し地域の問題を共有して、地域貢献に努めてまいります。

### ⑤ 事業所運営の安定と拡大について

柔軟に新規の受け入れを行い、給付管理件数を伸ばし、安定した運営が行われるように努めてまいります。事業所としての平均担当件数は一月あたり75～80件を目標とします。(常勤換算二人)

### ⑥ 感染症対策・自然災害対策について

新型コロナウイルス等、感染症対策、ならびに自然災害対策について整備していきます。

### 今年度法人目標「心身の健康」について

単に病気を患っていないからというだけでは「健康」と言い難いものです。なぜなら、心も身体も健やかであり、生き生きとした生活が送れないことには本来の「健康」と言えないからです。

今年度の法人目標である「心身の健康」を踏まえ、職員自身も健康を維持し、健やかに仕事に従事していけるように自らの心身の健康に目を向け、身体の休息とともに、心の健康づくりも意識していきたいと思っております。ご利用者、ご家族の心身の健康にも目を向け、一人ひとりに合わせたケアマネジメントをしていきたいと思っております。

## 15.オレンジカフェ すいもん

### 法人目標 「心身の健康」

オレンジカフェすいもんは、世界遺産である東大寺大仏殿から南西へ徒歩3分、豊かな自然に囲まれた奈良公園の中にあります。掘りごたつのある和室、明るい洋室、かやぶきの離れなど、それぞれのお部屋のしつらえや、お庭の手入れをボランティアさんとスタッフが一緒に相談しながら季節ごとに整え、お客様に古都奈良の落ち着いた雰囲気を楽しんでいただいています。地域住民の皆さま、カフェを楽しみたい方、どなた様も気軽に立ち寄れる安らぎの場、交流の場となっています。歴史を肌で感じながら、安心できる空間でリラックスしたり、お仲間との交流を楽しんだり、活動を通して元気になったり、新しい出会いがあり、心身の健康を維持するためには、なくてはならない通いの場です。

#### ①感動と笑顔で心はポカポカ

認知症家族の会主催の「しゃべり場」、田原地区新鮮野菜販売、けんぞう倶楽部の介護予防体操、クラフト教室、手作り教室、お茶会、二胡教室、チェロ教室、哲学講座、運営推進会議等、活発な活動を日々継続しています。

#### ②パティシエ手作りのおいしいケーキ

ガトーショコラ、スフレチーズケーキ、抹茶のケーキ、シフォンケーキ、アーモンドケーキ、ババロア、ショートケーキ、レモンケーキ、テイラミスケーキ、アップルパイ、フルーツロールケーキ……。パティシエ手作りの楽しいケーキを日替わりでご用意、「すいもんのケーキが好き」と言って下さるお客さまも増え、笑顔でほっこりしていただけるよう引き続き努めます。

#### ③懐かしさとパワースポット

掘りごたつのある和室では懐かしさを体験、季節ごとのしつらえや、明治ガラスからゆらいで見える庭も楽しめます。梅、桜、柿、栗、ゆず等、大きな木や四季折々の草花、パワースポットもあります。

「感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔」を基本理念とした社会福祉法人晃宝会の地域貢献事業の一環として認知症カフェの運営をして、晃宝会として認知症予防への取り組みを一層強化し、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごし、地域の皆さまが理解をした上でお互いさまの気持ちで受け入れて下さり、みんなで仲良く暮らせる町づくり、つまりは、共生社会を目指しています。認知症は多くの人にとって身近なことであると互いに理解し、運動不足の改善、生活習慣病の予防、社会参加、孤立の解消、役割保持を自然に実現できる場づくりをしていきます。

## 16.ニコニコタクシー（介護輸送サービス）

### 法人目標 「心身の健康」

地域包括ケアシステムをすすめる中で、奈良市東部山間地域における在宅での生活を支えるためのタクシー事業においては、要介護支援者、要介護度者、さまざまな障がいをお持ちの方が、ひとりでは公共交通機関を利用することが困難な方にご利用いただきます。サービス提供者は全員ホームヘルパー2級・2種免許の有資格者で、安全・安

心なサービス提供を心がけます。

ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりの気持ちに寄り添い、悩みや困り事、心配事等、会話の中から汲み取り、介護支援専門員や医療、福祉、保健等の専門職との連携をスピーディーに行いサービスを提供いたします。ご利用者はもとより、ご家族の心身の健康を守る意識で地域共生社会の実現に積極的に取り組んでまいります。

感染予防対策を行い、ご本人やご家族から信頼をいただけるよう、また地域の皆様に常に安心を提供し、対応していくためには、サービス提供者として心身の健康に留意する。職員間においても、お互いに声をかけあい協力、共有することを大切にします。急発進や急停車は厳禁とし、制限時速を厳守し、安全・安心な運転をいたします。

## 17.ハーネ 中御門

グループホーム『ハーネ中御門』は開所してから3年目となりおかげさまで多くのご利用者に支えられてきました。ご利用者全員が入居されて1年以上が経過し、ご利用者の生活の質は大きく向上しています。

当ホームは、ご利用者一人ひとりが「我が家」と感じられるような温かく居心地の良い環境を提供することでその成果が徐々に現れてきており、それは個々のご利用者に合わせて日常のルーティンを整え安心して過ごせる環境を提供することで、新しい生活空間に順応し心地よいと感じていただけるよう努めてきた結果だと考えています。

その結果、ご利用者は自室や共有スペースでリラックスした時間を楽しんで過ごされており、個々の好みやニーズに応じて調整された居住空間が、家庭のような温かい感覚を促進しています。

またご利用者のご家族からは、ご利用者が安心して生活できる環境が整っていることや自立に向けた成長が見られることに対して、大きな喜びと感謝の声が多く寄せられています。これからも、ご利用者とそのご家族の期待に応えるために、質の高いサービスの提供と環境の改善に努めるために、また、平成6年度の法人目標「心身の健康」はご利用者にとっても地域社会にとっても非常に価値ある取り組みであるため以下の要素を計画に組み込みます。

### 1. 長期的な健康管理と支援の強化

健康促進プログラムの拡充として休日のご利用者の過ごし方を考える。

- ・「オレンジカフェすいもん」で定期的に開催される健康体操のイベントの参加
- ・ 鴻ノ池競技場周りでのウォーキング
- ・ 奈良公園の散策など

### 2. 栄養管理の徹底

適切な栄養摂取を心身の健康の基盤と位置づけ、以下の取り組みを計画しています

- ・ 手作り料理の提供： 栄養バランスを考慮した手作りの料理を提供し、ご利用者に健康的な食生活を促します。
- ・ 完食を促す美味しい料理： ご利用者の好みや健康状態に合わせた美味しい料理を提供し、完食を促します。
- ・ 食事の楽しみ方の提案： 食事を通じて社交の場を提供し、ご利用者同士のコミュニケーションを促進します。

これらの取り組みにより、ご利用者に心身の健康を支える栄養を提供し、食事の時間を楽しみながら健康維持に努めます。

### 3. 社会参加とコミュニティの統合

社会参加とコミュニティの統合は、事業計画における重要な柱の一つです。

施設の周辺には奈良公園や東大寺など、歴史的かつ文化的価値の高い場所が多く存在し、それらで開催されるさまざまなイベントや祭りに、ご利用者を積極的に参加していただくことで地域の文化や伝統を体験し地域社会とのつながりを強化することができますと考えます。

これらの地域資源を活用することでご利用者が地域の一員として社会参加を深めることを目指します。

### 4. ご家族や相談支援員との連携強化

グループホーム『ハーネ中御門』では、ご利用者の最適なサポート体制を確立し、ご家族や相談支援員との信頼関係を深めるため、以下の取り組みを計画しています。

- ・定期的なコミュニケーションの確立： 職員はご利用者の日々の進捗や生活の様子を定期的にご家族や相談支援員と共有するため透明性の高い情報提供を心がけます。

- ・面談や報告会の開催： 定期的な面談や報告会を通じて、ご利用者の生活の様子や成長の進捗を直接ご家族や相談支援員に報告し、双方向のコミュニケーションを促進します。

- ・信頼関係の構築： 開かれたコミュニケーションを通じて、ご家族や相談支援員との信頼関係を強化し、ご利用者が安心して生活できる環境を維持します。

これらの取り組みにより、ご利用者とご家族、そして相談支援員との間での情報共有を強化し、ハーネ中御門への信頼を一層深めていきます。

このように、「心身の健康」を中心に据えた事業計画を展開することで、障害者グループホームはご利用者にとって最適な支援を提供し、そのご家族からの信頼を得ることを目指します。